

令和石臨技塾 活動報告（石川県）

◎中澤 柁哉¹⁾、山口 華穂²⁾、中村 彩花²⁾、小野寺 圭祐³⁾、寺田 早良⁴⁾、山口 文苗⁵⁾、堀納 優花⁶⁾、玉野 裕子⁴⁾
石川県能登中部保健福祉センター¹⁾、社会医療法人財団 董仙会 恵寿総合病院²⁾、石川県済生会 金沢病院³⁾、金沢大学附属病院⁴⁾、金沢医科大学病院⁵⁾、公立能登総合病院⁶⁾

【はじめに】令和石臨技塾は、石川県臨床衛生検査技師会の新しい試みとして発足したコミュニティである。20代～30代の若手から中堅技師が中心となり、部門別研究班にはない学びの機会の創出と、所属を超えた仲間づくりを目的として活動している。2022年6月から入塾者を募集し開塾2年目となる現在は、塾生8名にアドバイザーでもある担当理事4名を加えた12名が連絡を取り合い、研修会の立案から運営までを行っている。令和石臨技塾の大きな特徴は、塾生の興味や、業務で感じるニーズを軸として研修会のテーマが決まる点、また双方向性の研修会が多い点である。現在までに2回の研修会と支部学会企画を実施した。今回はその実施概要ならびに参加者の学びについて報告する。

【活動内容】第1回「検査データから見える景色が変わるかもしれないカンファレンス」（2022年11月26日）：企画理由は、講師の方が定期的に開催しているカンファレンスの話を聞き興味が湧いたこと、開塾当時塾生が2名のみであったため、入塾者の募集も兼ねて交流型の企画を希望したためである。コロナ禍であったため、対面とオンライ

ンを併用したハイブリッド形式で、模擬症例を用いて検査データや家族背景等から患者の全体像を想像し、グループでディスカッションを行った。

第2回「採血のいろはを学ぼう！」（2023年10月9日）：企画理由は、採血に対する不安や、上手くできるポイントが知りたいという思いが塾生間で共通していたためである。2名の講師を迎え、接遇と採血のコツについてそれぞれ講演いただいた後、令和石臨技塾恒例の座談会を開催した。

第3回「見る人に刺さる！魅力的なスライドと伝わるプレゼン講座」（令和5年度日臨技中部圏支部医学検査学会企画：2023年12月3日）：企画理由は、塾生間でプレゼンテーションスキルを磨きたいというニーズがあったためである。講師を迎え、参加者がスマートフォンから質問を投稿できるツール（Slido）を用いながらご講演いただいた。

【展望】今後も会員に興味を持ってもらえるような多彩な研修会を企画していきたいと考えている。

（連絡先：0767-53-2482）